

X 緑の特徴と今後の課題

1. 調査結果による緑の特徴と課題

樹木・保護樹木
<p>●特徴</p> <ul style="list-style-type: none">・区内の胸高直径 50cm 以上の樹木は、7,253 本であり、1 ha あたりの樹木本数は 6.4 本/ha であった。これは、東京都内の他区と比較しても高い水準である。・前回調査と比較して、胸高直径 50cm 以上の樹木が増加している。これは、前回調査において胸高直径が 50cm に満たなかった樹木が成長したためであると考えられる。・樹木が多いのは、六義園、小石川植物園、小石川後樂園などの大規模な緑地や、護国寺などの社寺、東京大学やお茶の水女子大学などの樹木の多い大規模な教育施設であった。・樹種でもっとも多いのがケヤキで、次いで、サクラ、イチョウ、スダジイであった。これらの 4 種で樹木の 5 割を超えている。・区内の保護樹木は 690 本が指定されており、そのうち 681 本が確認された・保護樹木の健康度は、おおむね健康度 2 以下の正常な状況であるが、健康度 3～4 となる樹勢や樹形の悪化の進んでいる保護樹木もあった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none">・保護樹木による、景観性の高い樹木の担保性の確保。・民有地の樹木の伐採による滅失を防ぐ制度的手法の確立。・健康度の低い樹木の樹勢回復などの保護措置の実施。
樹林地
<p>●特徴</p> <ul style="list-style-type: none">・区内の樹林地（300 m²以上の連坦性のある樹木の集団）は 84.0ha、113 か所であった。・前回調査と比較して 0.5ha 増加している。これは、前回調査から樹木が成長したために、個々の樹木の樹冠の拡大や、それに伴う樹林地としての連坦性の拡大により増加したものと考えられる。・全樹林地面積の 74.5%を 1ha 以上の樹林地 19 か所が占めている。六義園・小石川植物園・東大本郷などの特別区の樹林地がその主なものである。・六義園のスダジイ-ヤブコウジ群落や、小石川後樂園のタブ-イノデ群落など、自然度の高い植生が残されているのが特徴である。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none">・民有地の樹林地の担保性の確保。・自然性の高い樹林地の保全と維持。・樹林地としての成長の維持。

公園

●特徴

- ・区内の公園緑地は、116公園 56.4haであった。区民一人あたり公園面積は2.5㎡、区域面積に占める公園緑地の割合、公園緑地面積率は5.0%であった。
- ・前回調査と比較して箇所数・面積ともに大きな変化はなかったが、区民一人あたり公園面積は0.3㎡減少していた。これは、区の人口増によるものである。
- ・公園誘致圏の充足率をみると、弥生、水道、本郷北で充足率が低かったが、弥生・本郷北はその大部分が東京大学本郷キャンパスであることから大きな問題はない。
- ・平成11年3月に策定した「文京区緑の基本計画」では、一人あたり公園面積5.0㎡、身近な公園面積率3.0%が目標に掲げられているが、人口が大幅に増加しているとともに未達成の状況である。

●課題

- ・公園整備について量的な整備の方針について検討。
- ・量的整備が困難な場合は再整備計画と合わせて質的な確保について検討。

緑被率・みどり率

●特徴

- ・緑被率は18.4%であった。この緑被地に水面および公園の裸地を加えたみどり率は19.7%であった。
- ・これらのうちもっとも大きな緑被要素は、樹木被覆地の17.0%で緑被地の9割以上を占めていた。
- ・都内他区と比較すると、緑被率や樹木被覆率は比較的多い区となっている。

●課題

- ・公共施設を中心とした緑化による緑被率の拡大。
- ・社寺などのオープンスペースを伴う樹木被覆地の保全。

屋上緑化・壁面緑化

●特徴

- ・区内の屋上緑化は5.3haで、前回調査と比較すると2.5ha増加し、100%以上の増加となった。
- ・屋上緑化の余地があるとみられる屋上緑化可能地は、区内に約238ha存在しており、学校や工場用地を中心に全体的に屋上緑化の余地はまだ多く存在している。
- ・区内の壁面緑化は、1.1haであったが、建替えやブロック塀の撤去などにより、前回調査と比較すると0.1ha減少している。

●課題

- ・屋上緑化のさらなる推進。
- ・建築物の新築・改築の際の壁面緑化の推進。

緑視率

●特徴

- ・区内の平均緑視率は14.2%であった。
- ・前回調査と比較すると0.5ポイント、前々回と比較しての1.8ポイントの減少であった。宅地内の樹木の伐採や、道路拡幅などによる街路樹の撤去などが減少の原因である。

●課題

- ・私有地の緑の維持の促進。
- ・街路樹などによる市街地の景観確保方策の推進。

道路

●特徴

- ・区内の公道（国道、都道、区道）上の街路樹および植樹帯の植栽状況は、街路樹が6,865本、植樹帯が42,993㎡であった。
- ・通行者の休憩所として、ポケットパーク、グリーンスポットが35か所整備されている。
- ・生垣や道路沿いの樹木など、接道部の緑化状況をみると、接道緑化延長は93.98kmで、接道部緑化率は21.7%であった。
- ・接道部緑化率を前回調査と比較すると、全体で増減はなかったものの、区道で0.3ポイント、私道（幅4m以上）で0.1ポイント減少していた。

●課題

- ・街路樹などによる市街地の景観確保方策の推進。
- ・私有地における接道部緑化の推進。

地表面温度

●特徴

- ・文京区のヒートアイランド現象は主に夏期の昼間に、台地上部の市街地で発生している。
- ・大規模な樹林地や水面を擁する緑地や大学などの施設で地表面温度の低減効果が確認された。
- ・街路樹を有する高規格の道路や、社寺などの樹林地を伴うオープンスペースにより、市街地の高温域の拡大を防いでいる。

●課題

- ・ヒートアイランドを緩和する緑地やオープンスペースの保全。
- ・樹木被覆地の成長促進。
- ・街路樹の整備による風の道の形成。

生物多様性

●特徴

- ・公園内の池や水路に集まる飛翔性の昆虫類が確認されている。
- ・根津神社や千石緑地など、古くからの樹林に「タヌキ」が確認されている。
- ・ペット由来や開発に伴う土砂移入で、様々な外来種が区内に確認できた。

●課題

- ・飛翔性の昆虫・鳥類を意識した、公園や緑地内での水場の形成。
- ・街路樹・公園・屋上緑化などに食餌植物など導入した鳥類の移動経路の確保。

2. 緑の構造からの課題

(1) 環境保全システムからの課題

六義園・小石川植物園・護国寺などの大規模な樹林地は都市環境面、自然環境面のいずれにとっても文京区の重要な資源である。これらの大規模な緑地のヒートアイランドの緩和や、生物の生息環境域の形成などの機能を、市街部に効果的に取り込む方策を講じていくことで、文京区の都市環境を向上させられる。

今後の文京区の都市環境形成にかかる緑の課題としては、

- 公園や学校などで、ヒートアイランドの緩和や、水辺の生き物の移動の中継地点・生息域となる機能を有する池や水路などの水辺整備。食餌植物などの植栽。
- 神田川沿いを中心とした市街地の緑化の促進。
- 既設の学校や公共施設の緑化の推進。
- 社寺や大学などの大規模な樹林地の保全推進。
- 屋上緑化のさらなる推進。
- 風の道、エコロジカルネットワークの経路となる道路緑化の推進。

などを進めていく必要がある。



図 X-1 文京区の環境保全システム（現況図）

(2)レクリエーション系統からの課題

公園の量的な整備については文京区緑の基本計画の目標は達成できていない。公園の誘致圏については、ほぼ全域をカバーしつつあるが、一部誘致圏を満たせない地域も存在する。量的な公園の確保も今後とも努力をし続けていく必要はあるが、一方で、既存の公園の地域での存在価値を高めることや、区内に豊富なまとまりのある樹林地の活用、学校グラウンドなどの活用など公園に準ずる場を確保していくことも重要である。

今後の文京区の公園緑地整備の課題としては、

- 誘致圏を満たせてない地域中心とした公園整備の推進
- エコロジカルネットワークの形成やヒートアイランド緩和などの視点から既存の公園の「公園の質」の向上
- 社寺の樹林やや学校のオープンスペースの活用

等を図っていく必要がある。



図X-2 文京区のレクリエーション系統（現況図）

(3) 防災システムからの課題

都市部における緑地や公園には、火災の延焼防止機能や、災害の際の一時避難場所となる機能がある。市街地の多い文京区においては、これらの機能を積極的に活用していくことが望まれる。

また、地震においても避難路や通学路の安全確保のために、道路沿いのブロック塀などの生垣化などを積極的に働きかけることも都市防災上重要である。

今後の文京区の防災に資する緑や公園の課題としては

- 都市火災の延焼防止に資する、道路沿いの緑地帯など、街路緑化の推進
- 避難路などの安全確保のための通学路、生活道路に面するブロック塀の生垣化の推進
- 避難困難地での一時的な避難に資する公園整備の推進
- 学校などの避難所と連携した防災備蓄倉庫の設置など、地域の防災機能向上に資する「公園の質」の向上

などを進めていく必要がある。



図 X-3 文京区の防災システム（現況図）

(4) 景観系統からの課題

文京区は昔からの樹林地が現代においても継承されている地域である。また、多くの樹木が残されており、文京区の景観形成に資している。一方で、市街化も進み市街地景観が連坦している地域でもある。

文京区において、旧来からの景観資源を保全しつつ、道路や公園・公共施設における視覚的に立体感のある樹木による緑化をおこなうことは、潤いある都市景観形成のためには欠かせない。積極的な樹木植栽と、植栽された樹木の成長により樹木被覆地率は増加を今後とも促進していかなくてはならない。

今後の文京区の都市景観形成にかかる緑の課題としては、

- 社寺林など昔からの樹林地・樹木の保全
- 樹木の樹冠を大きく成長させるための環境づくり
- 樹木による学校および公共施設の緑化推進
- 道路の緑化の推進
- 市街地での屋上・壁面緑化の推進

などを進めていく必要がある。



図 X-4 文京区の景観系統（現況図）